

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 清水 顕範  
所属 (School) 生命環境科学獣医  
学年 (Grade) 6 年生

留学先 (Name of overseas institution)  
タイ タマサート大学  
留学期間 (study abroad period)  
2016 年 9 月 25 日～10 月 25 日

記入日 (Date) 2017 年 1 月 24 日

## 留学レポート Study Abroad Report

タイのタマサート大学で一ヶ月間の短期研究留学を行った。留学と言っても 1 ヶ月の短い期間なので皆さんの考える留学とは少し異なると思うが、留学体験談について書かせていただく。

留学の切掛けは私が所属する研究室で博士号を取得したタイ人の先輩繋がりである。私の実験の検体集めに協力していただけるということでタイに渡り、実験を行った。実験については日本でも出来ることなので、ここではタイでの生活や気になったことについて述べる。

タイでは大学の近くの寮に部屋を借りて過ごした。その寮では屋台、レストラン、コンビニ、服屋、雑貨屋やネットカフェまであり、寮で生活を完結することができた。タイで特に気に入ったところが、とにかく物価が安いことである。食事は一食 100 円から 200 円で十分な量を食べることが出来る。また服も非常に安くて日本の 5 分の 1 程度ではないかと思った。寮の賃貸料や水光熱費も一ヶ月で合わせて 1 万円程度であり、タイは金銭面で困ることはない国であった。

またタイで特に目についたのが野良犬である。野良犬がいたところにウロウロしている。寮にいる犬は人によくなついており、人の言うことを聞くが、心配になるのが狂犬病である。狂犬病は原因ウイルスを持つ犬に噛まれると感染し、発症すると治療法がないためほぼ 100% 死に至る感染症である。日本と違いタイは狂犬病の清浄国ではなく、毎年狂犬病による死者が出ている。野良犬は屋台で食事していると近くにまとわりついてきたり、コンビニの入り口にたむろしていたりするため、接触を避けることができない。噛まれることはなかったが、タイに行く際は野良犬になるべく近づかないように注意するべきである。

どうして野良犬が多いのかというと、仏教の国であるために野良犬を積極的に殺すことがないことや、ラーマ 9 世 (プミポン国王) が犬好きであったからであると言われている。プミポン国王は飼育していた王室犬についての絵本を執筆し、その売上を野良犬の保護費用に当てるなど、野良犬の保護を行っていた。プミポン国王は国民から敬愛されていたため、国民も野良犬に対して好意的に接していたのだと考えられる。

そのプミポン国王は、私が留学している時期に逝去された。プミポン国王は様々な業績を残し、国民に愛されていた。国王がなくなるとタイの人たちは娯楽を自粛し、黒い服装を着て、喪に服していた。テレビの番組も、タイ人の解説によると、プミポン国王が亡くなられたことを悲しみ、国王の業績を称える内容が毎日放送されていた。観光地でも葬祭のようなものが行われており、国をあげて国王の死を悼んでいた。国王が亡くなった次の日に大学に行くと同じ研究室の方から、カラフルな服は着ないよと言われた。派手な服を着ていると王室に対して敬意を示していないということで、外国人でも不敬罪に問われる可能性があると言われた。この時期にタイに留学したことは、ある意味で非常に貴重な体験であった。

ところで留学中に最も困ったことは英語が通じないことである。タイではほとんどの人が英語を話すことができない。私はタイ語が全く話すことはできず、文字も全く読むことができない。それでも身振り手振りや簡単な英語でなんとかコミュニケーションをとり、不便ではあったが買い物や観光などは可能であった。私は 1 ヶ月の短期留学であったが、長期留学する場合にはタイ語の勉強をしてからにすることがおすすめである。またタイだけではなく、どこに留学するにしても現地で使用可能な言葉を勉強してから行くべきである。

最後に留学をさせて頂くにあたって、大阪府立大学の関係各位の皆様からご支援を頂き、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。